飯南町の魅力と可能性を研究 飯南ラボを開設

7/22 日

小田にあるふるさと回想館で、島根大学教育学部地理学研究室の分室となる「飯南サテライトラボラトリー（通称「飯南ラボ」）」が開設されました。

開所式に出席した皆さん

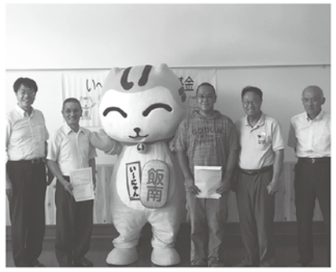
あいさつをする島根大学の作野教授

開所式には、山碕町長、小野議長、島根大学教育学部の作野教授、島根大学生、地元住民などが出席。地元小田真木地区の安部和昭自治振興協議会長の歓迎挨拶の後、看板の除幕が行われたほか、大学生の研究発表や地域住民との交流会も行われました。

この飯南ラボは「島根大学と飯南町の包括的連携協定」に基づく活動の一環として、島根大学の作野教授の提案で実現しました。今後は、飯南ラボを拠点にヒアリング調査等を行い、飯南町の魅力と可能性に関する研究を共同で行います。また、地域住民と大学生の交流の場としても期待されます。

長年の地域貢献に2団体を認定 い～にゃん人つなぎ基金事業 認定書授与式

7/22 日


認定団体の安江さん（左から2人目）、永田さん（左から4人目）と作野会長（左端）

い～にゃん人つなぎ基金事業認定書が、国道54号活性化アクションプラン推進協議会の作野広和会長から2団体に贈呈されました。

贈呈を受けたのは、谷でヤマメの養魚場と釣堀の運営を行う「ふれあい養魚場程原地区」代表の安江良夫さん（谷）と、由来の大しょうがの栽培を行う「しょうがの里」代表の永田勝広さん（上区）。

両団体の長年の熱心な地域貢献活動が、高く評価されました。

熱い夏がやってくる 土曜夜市神楽祭

7/21 土

道の駅とんばら駐車場を会場に「第八回 土曜夜市神楽祭」が開催されました。

会場に設けられた特設ステージでは、カラオケや神楽演舞などさまざまな催しが行われ、また、地元団体による夜店は多くの人でにぎわい、地域住民の憩いの場となっていました。

大田市の「土江子ども神楽団」による神楽演舞では、大きな大蛇が登場。観覧席のすぐ近くまでやってくると、来場者は大きな拍手を贈り、会場は熱気に包まれました。

大迫力の「八岐の大蛇」

夏真っ盛り とんばらふる里夏祭り

7/28 土

頓原の夏の風物詩「とんばらふる里夏祭り」が、みせん駐車場を会場に開催されました。

ステージでは桜ヶ台保育所による太鼓演奏を皮切りに、頓原中学校吹奏楽部の演奏、飯南牡丹組のよさこいなど、さまざまな催しが行われ、食事をしながら楽しむ多くの人で賑わいました。

仁多乃炎太鼓による太鼓の演奏

夜空を彩る1,000発の花火

盆踊りの輪

また、恒例となっている盆踊りでは、50人余りが赤や青のはっぴを着て太鼓の周りに円を作り、夏祭りムードを盛り上げていました。

平成28年から3年間、会場が「みせん駐車場」となっていましたが、来年は、頓原連坦地での開催となる予定です。

自分ごととして 県人権教育夏期研修

8/3 金

島根県人権教育夏期研修が赤名農村環境改善センターで開催されました。

研修では、吉賀町役場の齋藤良二さんが、ハンセン病の人権問題への取り組みについて発表。齋藤さんは、「問題が解決しないのは、私自身が自分の問題だと捉えていないから。社会が、住民が他人事だと思っているからだとごまかしてはいけない」と、一人ひとりが人権問題を自分ごととして捉えることの大切さを訴えました。

住民や町内外の教職員、行政関係者ら約180人が出席

真夏の頂を目指して 飯南ヒルクライム

7/22 日

全長13ｋｍ、高低差６００ｍ、出雲国風土記にも登場する荒鹿坂の急勾配を駆け上がる自転車レース「飯南ヒルクライム」が開催されました。

標高1,050mのゴールを目指してスタート

遠くは京都府や福岡県など、県内外から２３９人が参加。大会終了後は、頓原連坦地の直線道路をパレード走行し、沿道からは地元住民などが、風を切って走る自転車の集団に手を振り応援していました。

連坦地を駆け抜ける集団